



自転車

今、自転車をスポーツとして乗る人が増えています。小山でも“ツール・ド・おやま”を開催しています。舗装された山道を通ると必ずと言っていいほどスポーツサイクルに乗っている人を見かけます。

スポーツだけでなく、生活の中でも学生、児童、生徒たちにとって自転車は必需品にもなっています。また近所に用のあるときに、自転車を使用する人も多いと思います。しかしその一方、自転車による事故も問題になっています。あまり知られていませんが、道路交通法上、「軽車両」になり損害賠償責任があります。スピードの出しすぎ、ケータイを使いながらの運転事故など裁判になるケースも増えています。そして乗る側も注意が必要です。スポーツサイクルではボルトの緩みによりサドルやハンドル、車輪がずれたり外れたりする事故があります。一般の自転車でも途中で空気が抜け、難儀した経験をお持ちの方もいると思います。レインウェアにおいても裾が車輪に絡まったり、フードで視界が遮られ車が見えなくなったりします。正しい使い方をご確認ください。

自転車は健康にも良いし、大変エコな乗り物ですが、万一に備えて保険に入っておくことも大切です。安全で楽しく活用できたらいいですね。



米国のハリウッドにおける男女差別

米国の女優メルリ・ストリープさんが、こんな発言をしています。ハリウッドの映画界では若さが優遇され、女優は40歳をすぎると出演する機会が減っていき、魔女の役しか回ってこなくなるとか。

彼女は1949年生まれのおランダ系米国人で4人の母親。数々の映画やドラマでアカデミー賞主演女優賞やゴールデングローブ賞などを受賞しています。そんな輝かしい功績のある女性でさえも、相当の性差別を感じています。ハリウッドという現代社会の最先端というイメージがありますが、かなり保守的で男社会のようです。



また女性監督の数も少なく、2014年に北米で公開されたメジャー作品のうち、わずか4.6%でした。女性監督はハイリスク扱いであると言われ、自由に仕事ができない環境にあります。

日本よりは男女差別が少ないという印象を持っていた米国ですが、「自由の国アメリカ」でないことは確かと言えます。